

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	フレンズ石津		
○保護者評価実施期間	2025年8月20日		～ 2025年8月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年8月20日		～ 2025年9月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年10月14日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別療育と集団活動の両方を取り入れ、子どもの特性や課題に応じた柔軟な支援を行っている。	保護者のニーズや個別支援計画の目標達成を意識し、段階を踏んだ療育内容を用意している。来所後は指導員とともにその日のスケジュールを立て、見通しを持って行動できるように支援している。集団活動ではゲーム等を取り入れ、楽しみながら集団の中でのルール理解や協調性を育めるよう工夫している。	活動や教材のバリエーションを増やし、子どもが飽きずに意欲的に取り組めるように内容の工夫を継続していく。
2	曜日ごとに英語を取り入れた小集団での療育を実施し、言語面・社会面の発達支援を行っている。	2～4人の少人数グループで活動し、発達段階に応じてグループを分けている。静と動の活動を組み合わせ、集中が持続するように工夫している。子どもがより楽しみながら学べるよう、職員が日々教材や新しい活動内容の勉強を行っている。	英語活動を通した子どもたちが「言葉を使う楽しさ」を感じられるよう、遊びや体験を多く取り入れ、継続的にプログラムを発展させていく。
3	療育において指導員の担当制を導入し、子ども一人ひとりに対して責任を持った支援を行っている。	1日の利用児童数を指導員数で分け、来所から降所まで一貫して担当が支援を行う体制を取っている。担当制でありながら、日ごとに担当を変え、全指導員が全ての子どもの状態を把握できるようにしている。	毎朝の全体ミーティングで情報共有を行い、全員で「全児童を支援する」という意識をさらに高めていく。今後も職員間での連携を強化し、より質の高い支援を目指す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	来所時間がばらついており、送迎対応もあるため、戸外活動の実施が難しい。	人員確保が難しい時間帯があり、室内で過ごすことが多く、体力の有り余る子どもが狭い空間で遊ぶことで、怪我の恐れがある。	室内での自由遊び時には、ボードゲーム等机上で楽しめる遊びを提供し、安全に配慮する。また、身体を動かす活動の時間を適切に設け、バランスの取れた支援を行う。
2	勉強や宿題を行う環境が十分に静かでなく、集中を維持しづらい。	机上の療育と同じスペースで自習を行っており、他児の活動が視界に入ること集中を妨げてしまう。	空間の拡充は難しいため、宿題時間の設定や声掛けの工夫により集中を促す。また、療育時間との調整を図り、職員間での連携でより集中しやすい環境を整えていく。
3	支援中の状況や対応方針の共有が十分でないことがある。	日々の業務が多岐にわたるため、細かな情報共有の機会が少ない。	朝ミーティングや日報での情報交換を徹底し、支援の統一性を高める。全職員が同じ方向性で子どもと関われるよう、共有体制を強化していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 フレンス石津

公表日 2025年10月22日

利用児童数 2025年8月30日

回収数 14

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	91%			9%		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	91%			9%		
	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	100%					
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	100%					
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	100%					
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	91%	9%				
	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	100%					
	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	91%			9%		
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	91%	9%				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	100%					
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	9%	9%	19%	63%		
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	100%					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	91%	9%				
	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19%	9%	9%	63%		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	100%					
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	100%					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	91%	9%				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。		28%	27%	45%		
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	100%						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	100%					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	55%	27%		18%		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	100%					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	91%			9%		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	73%			27%		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	100%					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	91%	9%				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	100%					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	100%					
	29	事業所の支援に満足していますか。	100%					

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		フレンズ石津		公表日		2025年10月22日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		・机上での療育は十分に行えるスペースを確保し、活動の内容に応じて机を片付ける等の工夫している。	・集団での活動時には手狭に感じる場面もあるため、活動内容に応じた環境調整をさらに工夫していく必要がある。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		・子どもの人数や状態に応じて支援が行き届くよう、柔軟な対応を心がけている。	・職員配置をより計画的に行えるよう、今後は想定される人数変動を事前にシミュレーションして備えていきたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		・机のスペースとクッションマットのスペースで分け、安全に配慮した環境を整えている。	・クッションマットが取れてしまうことがあるため、固定方法や点検の仕方を改善していきたい。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	・子ども自身も清潔を意識できるように、ティッシュやゴミ箱を手の届く位置に置き、声掛けを行っている。	・活動後に物が乱雑になりやすいため、子どもと一緒に片付ける習慣付けをさらに強化していきたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1	・指導員と一対一の空間を作り、安心できる環境で感情を整えられるよう配慮している。	・今後は静養以外でも「一人で集中できるスペース」として活用出来る工夫を検討したい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10		・個別療育では担当制を設け、担当指導員が責任を持って計画を立てて実施している。	・目標設定に関して職員間で認識の違いが出るため、今後は共通の視点や評価基準を持つる仕組みを整えたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・毎年の評価表を通じて保護者の意見を把握し、全指導員へ周知を行っている。	・周知は出来ているが、全体会議で意見を深く話し合う場を設けることが難しい。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・毎朝の支援内容確認の会議で、療育に携わる指導員同士の意見を把握できている。	・現場の指導員と管理職との間で全体的な意見交換の機会が不足しており、共通認識が持ちにくい。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	8		・評価結果を受けても実際の行動改善に結びつかない部分がある。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6	4	・外部研修にも参加し、研修報告を通じて内容を共有している。	・報告は文面で行っているが、口頭での伝達機会が少なく、理解に差が出やすい。	
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10			・公表の仕方について、より保護者に視覚的資料や説明の工夫等のわかりやすい形を検討したい。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		・半年に一回アセスメントを実施し、成長を振り返りながら保護者の意向を聞き取り、課題を整理する。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		・支援計画作成前に会議を開き、様々な視点から子どもの様子を把握している。	・支援計画の検討をより体系的に行えるよう、会議の記録やエビデンスを残す方法を強化していきたい。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		・計画会議後には全職員に周知し、日々の療育時に確認しながら支援を行っている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		・日常的な行動観察も取り入れ、総合的な理解を目指している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9	1	・個性性を重視した具体的な支援計画を立てている。	・ガイドラインのねらいをより幅広く反映できるように、研修や事例共有を進めたい。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		・管理者を含めた全職員で意見を出し合い、活動プログラムを立案している。	・職員全員が集まる時間が限られており、効率的に意見交換できる仕組みづくりが課題。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		・季節や行事に合わせた内容(SSTや外出体験等)を取り入れ、マンネリ化を防いでいる。	・プログラムの多様性をさらに高めるため、外部機関や地域資源との連携も検討していきたい。	

児 供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		・集団活動内でも段階を分けて達成感を持てるよう配慮している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		・担当制を導入しつつ、担当任せにせず職員全員でサポートする体制を取っている。	・打合せ内容を記録に残し、後から参照できるようにすると更に連携が強まる。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		・支援終了後は個人間で気付きを共有し、翌朝のミーティングで全体に伝えている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		・記録を通じて子どもの成長や課題を把握し、次の支援に活かしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10		・アセスメント前にモニタリングを行い、成長や課題を確認している。	・モニタリングの結果を体系的に整理し、計画見直しに反映させる仕組みを強化したい。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	10		・4つの基本活動と個人の指導計画に沿った療育内容を考えて支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	10		・一日のスケジュールを立てる際に大きな事柄として決めていることはあるが具体的な内容は子ども一人一人と話し合いをしながら決めており、子どもの気持ちを尊重しながら自ら選択できるような声掛けを工夫している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		・子どもの状況を正確に把握したうえで会議に参加できている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		・医療、教育、福祉など関係機関と連携を取るよう努めている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10		・保護者から年度初めや月ごとに提出してもらったり、学校への送迎の際に学校からいただいたりして学校関連の情報を把握している。また、送迎時に変更やトラブルが生じた際は早急に連絡をし、学校とデイで協力体制を取っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10		・児童発達支援から利用してくれている児童多く、就学前から支援を継続しているため、支援内容や家庭での様子など情報共有がスムーズに行えている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	9	1	・保護者や相談支援専門員を通して、子どもの特性や支援内容を詳細に伝達し、移行先の事業所にてスムーズに支援が開始できるよう努めている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		10		・センターとの直接的なスーパーバイズや助言を受ける仕組みを取り入れていくことが今後の課題。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		10		・安全面に配慮しつつ、地域の子どもたちと一緒に活動できる機会を増やしていく必要がある。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		10		・現在参加できていないため、参加できるようにする。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	2	・気軽に相談できる環境を整えている。	・情報を口頭やLINEだけでなく、記録に残す形で共有すると一層共通理解が深まる。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	8	・保護者と日常的に連絡を取り合い、子どもに必要な支援を一緒に考えている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		・契約面談及び半年毎の面談で丁寧に説明を行っている。 ・変更があった場合も、その都度保護者に説明を行い、理解を得られるよう努めている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		・子どもの最善の利益を第一に考えた計画づくりを行っている。	・保護者の意向をより具体的に反映できるように、事前アンケート等を活用して意見収集を強化したい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		・面談時に目標設定を保護者と一緒にし、支援計画完成後も再度説明と同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		・必要に応じて面談を設定し、全体会議で支援方法を検討している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		10		・オンライン交流や短時間での行事等、参加しやすい新たな方法を模索していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		・相談や申し入れがあった際には速やかに職員間で共有し、対応方針を決定している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		・行事予定や持ち物などのお知らせを公式LINEで発信している。	・SNSや掲示物等を活用し、より多様な情報発信方法を検討したい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		・鍵付き書庫で管理し、退所後は本社で一括保管する等厳重に対応している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10			・情報伝達の手段が多様なため、記録として一元管理できる仕組みの導入を検討したい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	9	・公園での活動や買い物体験を通して、地域住民と自然に交流する機会を設けている。また、挨拶を指導員と一緒に子どもの地域参加の意識づけに繋がっている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	2	8	・定期的に避難訓練を実施し、非常時への意識づけを行っている。	・児童一人ひとりが避難の流れを確実に理解できるよう、繰り返し訓練を重ねていく必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		・火災、地震、不審者対応など、想定に応じた避難訓練を実施している。戸外活動の際にも避難経路を実際に歩き、安全確認を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10		・情報は全職員で共有し、緊急時に備えている。	・情報を随時更新できるよう、定期的な確認や書面での再提出の仕組みを整えていきたい。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		・年度初めにアレルギー確認の書類を保護者に記入してもらい、全職員で把握している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		・職員向けの安全管理に関する研修や訓練の実施が不十分なため、計画的に実施していきたい。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		10	・子どもの安全確保を第一に考え、職員間では情報共有を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		・全体での共有・検討の場が不足しているため、定期的な振り返り会議を設定して再発防止策を検討していきたい。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		・外部研修への参加を積極的に行い、参加職員が学びを事業所全体に共有している。 ・職員全員が虐待防止への意識を持ち、日常の支援の中でも意識づけが出来ている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		・現在、身体拘束を行っている児童はいない。 ・やむを得ない場合には、関係機関に相談の上、保護者の同意と支援計画への明記を徹底している。	